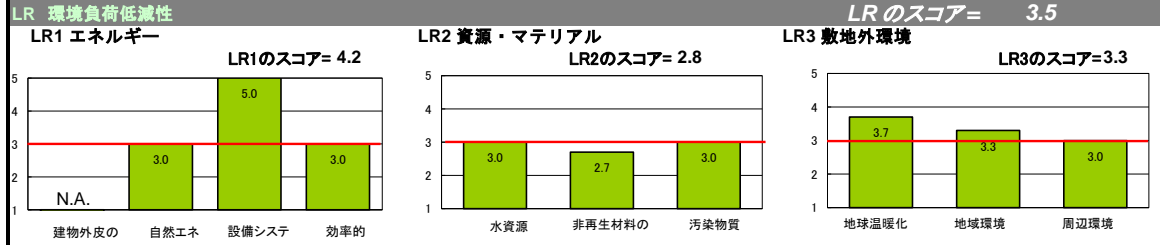
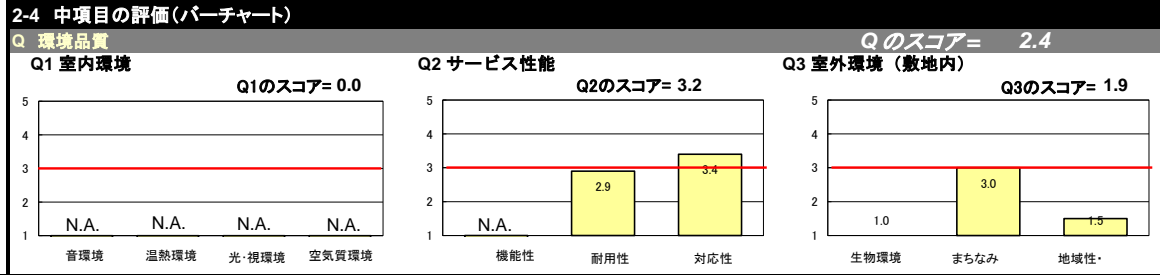
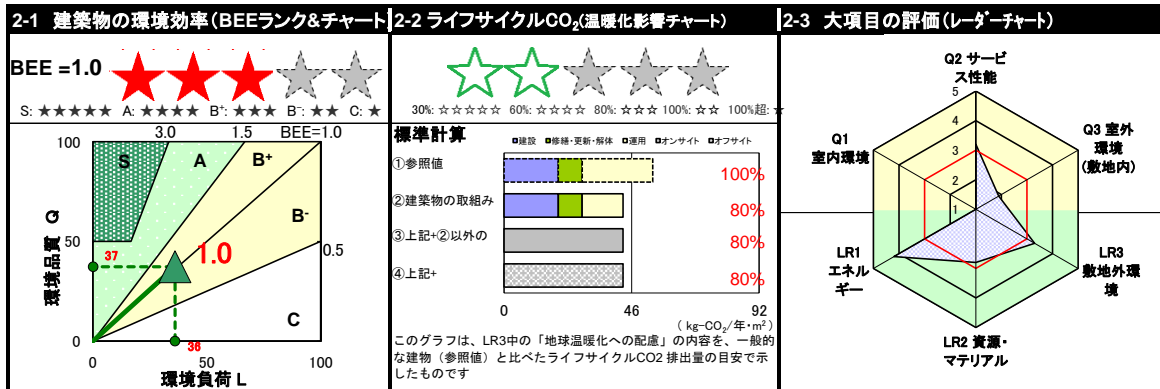


CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	横森製作所 名古屋第二工場	階数	地下1階地上0階
建設地	愛知県豊橋市石巻西川町吉野1番369.404.405.406.407.408	構造	S造
用途地域	無指定	平均居住人員	5人
気候区分	7地域	年間使用時間	2,112時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年8月 予定	評価の実施日	2024年10月10日
敷地面積	8,984 m ²	作成者	浅野 英治
建築面積	3,261 m ²	確認日	2024年10月10日
延床面積	3,117 m ²	確認者	浅野 英治



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.7</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>〈外装材に使用した地域性のある材料〉</p> <p>なし</p> <p>〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
横森製作所 名古屋第二工場

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	評価点	重み係数	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
					評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
1.2 遮音		-	-	-	-	-	-	-	-	
1 開口部遮音性能		-	-	-	-	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	-	-	
1.3 吸音		-	-	-	-	-	-	-	-	
2 温熱環境										
2.1 室温制御		-	-	-	-	-	-	-	-	
1 室温		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
2 外皮性能		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
3 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
2.3 空調方式		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
3 光・視環境										
3.1 昼光利用		-	-	-	-	-	-	-	-	
1 昼光率		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
2 方位別開口		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
3.2 グレア対策		-	-	-	-	-	-	-	-	
1 昼光制御		5.0	-	-	-	-	-	-	-	
3.3 照度		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
3.4 照明制御		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
4 空気質環境										
4.1 発生源対策		-	-	-	-	-	-	-	-	
1 化学汚染物質		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
4.2 換気		-	-	-	-	-	-	-	-	
1 換気量		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
2 自然換気性能		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	-	-	-	-	3.0	-	-	
4.3 運用管理		-	-	-	-	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	-	-	-	-	-	
1 広さ・収納性		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画	独自	3.0	-	-	-	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	-	-	-	-	
1 広さ感・景観 (天井高)		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
3 内装計画		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
1.3 維持管理		-	-	-	-	-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	-	-	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.5	2.9	0.52	-	-	-	-	2.9	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48	-	-	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		0.3	3.3	0.33	-	-	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	3.0	0.09	-	-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	3.0	0.08	-	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	5.0	0.15	-	-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	
2.4 信頼性		0.1	2.2	0.19	-	-	-	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	1.0	0.20	-	-	-	-	-	
2 給排水・衛生設備		3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	-	
3 電気設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	
4 機械・配管支持方法	②	3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	-	

3 対応性・更新性			0.4	3.4	0.48	-	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり				5.0	0.60		3.0	-	
2 空間の形状・自由さ			3.0	4.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38		-	-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.17		-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17		-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22		-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57		-	-	1.9
1 生物環境の保全と創出			独自③	1.0	0.30		-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	1.5	0.30		-	-	1.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	1.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-		-	-	3.5
LR1 エネルギー				-	0.40		-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	-	-		-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.13		-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.58	3.0	5.0	0.63		-	5.0
4 効率的運用			0.2	3.0	0.25		-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00		-	-	
4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50		-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価							-	-	
4.1 モニタリング							-	-	
4.2 運用管理体制							-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30		-	-	2.8
1 水資源保護			0.1	3.0	0.15		-	-	3.0
1.1 節水			3.0	3.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60		-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67		-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.7	0.63		-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	1.0	0.20		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	3.0	0.05		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	4.0	0.24		-	-	
独自							-	-	
独自							-	-	
躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。							-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22		-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68		-	-	
1 消火剤				-	-		-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50		-	-	
3 冷媒			3.0	3.0	0.50		-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30		-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率80%	3.7	0.33		-	3.7
2 地域環境への配慮			0.3	3.3	0.33		-	-	3.3
2.1 大気汚染防止				5.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	2.2	0.25		-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自	3.0	0.25		-	-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25		-	-	
3 交通負荷抑制			独自	2.0	0.25		-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33		-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40		-	-	
1 騒音			独自	3.0	1.00		-	-	
2 振動			独自	-	-		-	-	
3 悪臭				-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40		-	-	
1 風害の抑制				3.0	0.70		-	-	
2 砂塵の抑制				3.0	-		-	-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20		-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70		-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30		-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	
② 資源の有効活用				3.0
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 横森製作所 名古屋第二工場

計画上の配慮事項	
総合	シンプルな外観とすることで周辺環境への配慮を図りつつ、省エネ性能向上を図る設備機器の採用、一部再生材の利用により、LCCO2の排出率を抑える計画とした。
Q1 室内環境	
Q2 サービス性能	階高をゆとりのある高さとし、室内の快適性と室内環境の向上を図りつつ、壁長さ比率を小さく抑え、空間の自由度を高めた計画とした。
Q3 室外環境(敷地内)	建物高さ、位置等周辺のまちなみ景観への配慮をした計画とした。
LR1 エネルギー	効率的な設備機器の選定により省エネを図る計画とした。
LR2 資源・マテリアル	躯体と仕上材が容易に分別できる等、部再利用可能性向上への取組を考慮した計画とした。
LR3 敷地外環境	燃焼機器を使用しない等、ライフサイクルCO2の排出率に配慮した計画とした。
その他	